



特別企画 東工大の新図書館

去る2月に新図書館が無事竣工しました。新図書館は、5月30日に地上の学習エリアのオープン、9月26日に地下の図書館エリアを含めた全

館のグランドオープンが予定されています。本号の特別企画では、新図書館が建設された経緯・設計上の特徴・館内の各種設備を紹介します。



新しい図書館へ

新しく図書館が建設されることになったきっかけは、法律の改正により、現図書館が耐震基準を満たさなくなったことです。この対策として、まずは、現図書館に耐震補強工事を施すことが検討されました。しかし、現図書館からコンクリートのサンプルを取って強度の検証を行った結果、耐震補強工事を施すのは難しいことがわかりました。そこで、新しく図書館を建設することが決まり、建設場所や設計のコンセプトについて話し合いが行われました。

新図書館の建設場所は、大岡山キャンパスの中心に建てることを念頭に置いて検討されました。

キャンパスの中心とは、地図上の中心ではなく、多くの東工大の学生・教職員が通り道としている場所を意味しています。日々、多くの人が通り道にっていて、利用者にとって使いやすい立地を考えた結果、現図書館の正面に新図書館が建設されることになりました。

新図書館の設計上の大きな特徴は、資料の収容場所、閲覧場所が全て地下に作られていることです。地下の図書館エリアは二つのフロアからなり、全ての資料がこの二つのフロアに収容されます。ガラス張りになっている地上の学習棟は、二階、三階部分が学生用の学習エリアになっています。

●Tips1●

現図書館では限られた場所でしか学内無線LANを利用することができませんが、新図書館では図書館エリア・学習エリアの全ての閲覧スペース・学習スペースで学内無線LANを利用できるようになります。

設計上の特徴

新図書館の設計の背景には、さまざまなコンセプトがあります。ここで、良いキャンパスをつくること・使いやすい図書館であること・学部生の

学習の場を確保すること、という三つのコンセプトに沿った設計上の特徴について、順を追って説明していきます。

良いキャンパスをつくること

今まで本学では、施設の新築、改築や建て替えを行う際に、周辺の建物との関係や緑化などが十分考慮されていませんでした。その結果、学内のさまざまな場所で、景観があまり良くない、建物が密集しすぎているなどの問題が生じています。例えば、現図書館は、正門と本館を結ぶ直線上に建設されてしまったため、正門から本館を見渡すことができなくなっていました。

このような状態を改善していこうという大学全体の動きの一環として、新図書館は施設の大部分が地下につくられました。これによって、キャンパスの景観を損なわずに大きな施設をつくることができます。加えて、施設の地上部分を緑の丘にすることによって、人通りの多いキャンパスの中心に、広くて、緑の豊かな通り道を確保することができました。

使いやすい図書館であること

地下の施設はキャンパスの景観や機能性に配慮されているだけでなく、耐震性にも優れています。また、直射日光が入りにくいため、資料の保存場所としても適しています。その反面、施設の内部が暗く、閉鎖的になってしまうため、資料を閲覧する環境としてはあまり適していません。そこで、地下の図書館エリアには資料の保存環境と開放的な空間を両立するための工夫が施されました。

開放的な空間をつくるための工夫として最も大きな点は、建物の外部の地面を一部掘り下げて、掘り下げた部分の壁面をガラス張りにしている点です。ガラス面の周辺は図1のような広々とした吹き抜けになっています。この近くに机が配置されるので、ガラス面から入り込む自然光によって、

快適に資料を閲覧することができます。また、地下一階中央の閲覧スペースには大きな三角形の天窗が設けられ、こちらからも日差しが取り入れられるようになっています。このほかに、フロアの見通しをよくするために、地下一階には丈の低い書架だけを配置しているスペースがあります。

地下の図書館では、通常の書架のほか、電動集密書架を導入しています。集密書架とは、図2のような、可動式の書架を密接に並べたもので、利用したい資料のある書架のスペースをその都度あけることができます。これによって、限られた空間を有効に活用することができます。また、今回新図書館に導入される集密書架はすべて電動式であるため、重い書架を移動させるのも簡単です。



図1 吹き抜け（右側手前が建物のガラス）

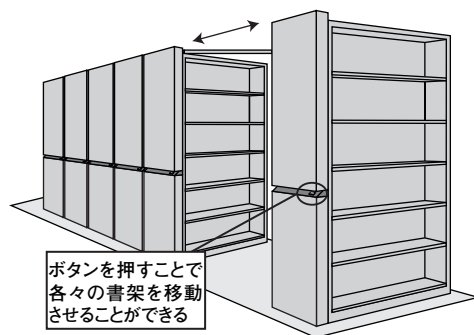


図2 集密書架

学部生の学習の場を確保すること

学習エリアは、学部生の学習の場を確保する、というコンセプトの下につくられました。本学では学部4年生以上の学生は研究室に所属し、研究室で勉強することができます。一方で、学部3年生以下の学生には勉強するために利用できる施設が十分に提供されていませんでした。この現状を受けて、学習エリアは学部生が勉強に取り組むこ

とのできる場所として設計されました。学習エリアは、他の利用者の迷惑にならない程度なら集団で勉強する場として利用することもできます。

学習エリアは図書館エリアが開館する9月まで、短縮して営業されますが、地下の図書館が開館した後は、地下の図書館と同様に現図書館と同じ営業時間になる予定です。



設備の紹介

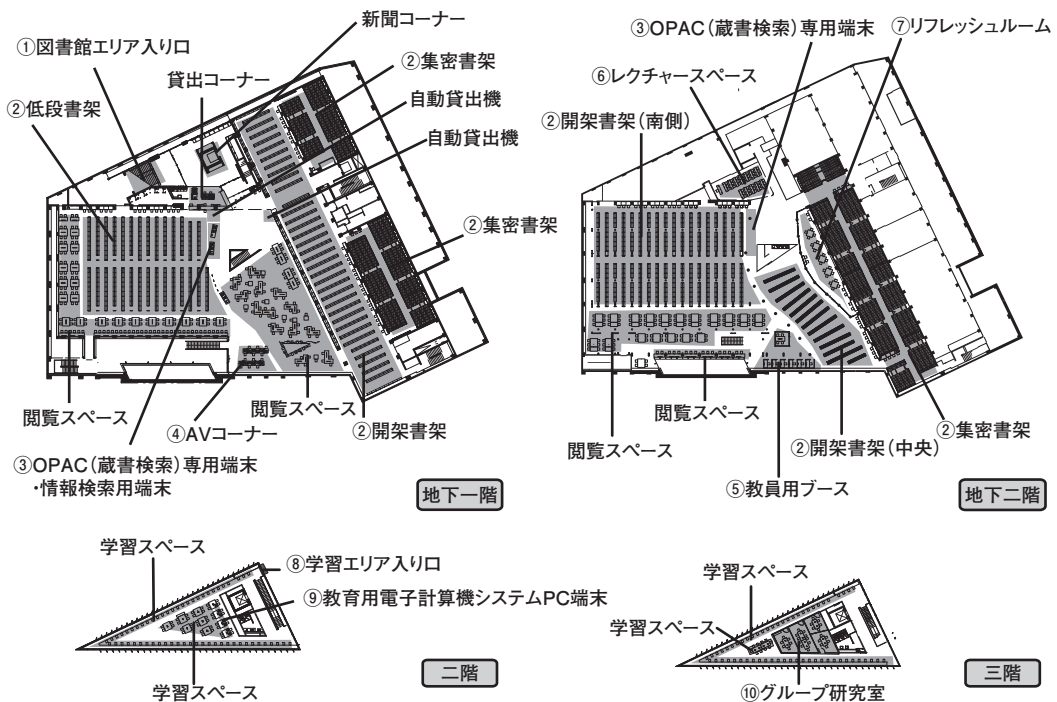


図3 見取り図

●Tips2●

新図書館の座席数は、地下の図書館が計536席、学習棟が計195席になります。地下の図書館だけでも、現図書館より10%程度座席が多くなっています。

●Tips3●

学習棟の学習スペースは、窓に沿ったカウンター型のものになっていて、外の景色を眺めながら快適に学習することができます。

図書館エリア

①図書館エリアへの入り口

学習棟一階部分に、地下の図書館に繋がる階段があり、ここから入館することができます。

②書架

書架・集密書架は左の見取り図のように配置されています。資料の具体的な配置は右下の表のようになる予定です。

③ OPAC (蔵書検索) 専用端末・情報検索用端末
貸出・返却カウンターの近くに OPAC (蔵書検索) 専用の PC、インターネットに接続された情報検索用の PC が設置されています。情報検索用の PC の利用には PIN コードが必要です。

④ AV コーナー

地下一階の吹き抜け周辺には AV コーナーがあります。ここには、一人用に仕切られたブースが 12 席設けられています。DVD はこの周辺の書架に収容される予定です。

⑤教員用ブース

地下二階の吹き抜け周辺には、通常の机のほか、教員用に、簡易な仕切りで区切られた個室が設置されています。

⑥レクチャースペース

レクチャースペースでは、図書館に関わる様々な催事が行われる予定です。このスペースは、防音カーテンによって他のスペースと区切られます。普段は防音カーテンが開いているので、他の閲覧スペースと同様に利用することができます。

⑦リフレッシュルーム

現図書館のリフレッシュルームと同様のガラスの仕切りで区切られたスペースになります。

図書館の職員の方々への取材を通して、普段は聞くことのできないような話まで知ることができ、とてもいい経験になりました。新図書館を是非有効活用していきたいと思います。

学習エリア

⑧学習エリアへの入り口

緑の丘は学習棟の二階につながっているため、二階から直接入館することができます。

⑨教育用電子計算機システム PC 端末

二階には、学術国際情報センターから提供される PC が 7 台設置されています。これらの PC は学部生が自由に利用でき、本学の院生・教員の方々も、登録を行うことで利用することができますようになります。

⑩グループ研究室

三階には、四室のグループ研究室が設けられています。これらの個室はグループでの学習・研究の場として利用することができます。利用するためには図書館のオンラインサービスである TDL オンラインリクエストを通して予約する必要があります。

地下 一階	開架書架	一般図書・参考図書・大型図書・新着図書・DVD・文庫／新書・東工大出版物	
	集密書架	洋雑誌・古い図書	
	新聞コーナー	新聞	
地下 二階	開架書架	中央	新着雑誌
	集密書架	南側	和雑誌・会議録・テクニカルペーパー 洋雑誌

表 書架の配置

●Tips4●

新図書館の設計に携わった、本学建築学専攻の安田教授は、本学本館前のウッドデッキや、大岡山駅に付属している東急病院の設計も担当しています。

●Tips5●

学習棟の屋根と側面には太陽光パネルが設置されています。これによって新図書館の消費電力の一部をまかなうことができます。

取材をはじめとして、たびたび親身にご協力いただいた図書館の職員の方々に心よりお礼申し上げます。

(徳増 沙耶)